

IN THE UNITED STATES PATENT AND TRADEMARK OFFICE

Applicant : Takuya Shiraishi et al.                      Art Unit : Unknown  
Serial No. :    Examiner : Unknown  
Filed : February 12, 2004  
Title : DATA RECORDING CONTROL DEVICE

Commissioner for Patents  
P.O. Box 1450  
Alexandria, VA 22313-1450

TRANSMITTAL OF PRIORITY DOCUMENT UNDER 35 USC §119

Applicants hereby confirm their claim of priority under 35 USC §119 from the following application:


·Japan Application No. 2003-033889 filed February 12, 2003

A certified copy is submitted herewith.

Please apply any charges or credits to Deposit Account No. 06-1050.

Respectfully submitted,

Date: 2/12/04

  
Frank R. Occhiuti  
Reg. No. 35,306                      41942

Fish & Richardson P.C.  
225 Franklin Street  
Boston, MA 02110-2804  
Telephone: (617) 542-5070  
Facsimile: (617) 542-8906

20805350.doc

CERTIFICATE OF MAILING BY EXPRESS MAIL

Express Mail Label No. EV331655182US

February 12, 2004  
Date of Deposit

日 本 国 特 許 庁  
JAPAN PATENT OFFICE

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出 願 年 月 日  
Date of Application: 2 0 0 3 年 2 月 1 2 日

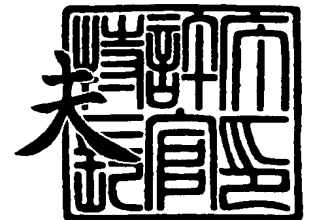
出 願 番 号  
Application Number: 特 願 2 0 0 3 - 0 3 3 8 8 9  
[ST. 10/C]: [ J P 2 0 0 3 - 0 3 3 8 8 9 ]

出 願 人  
Applicant(s): 三 洋 電 機 株 式 有 限 公 司

2 0 0 3 年 1 2 月 2 5 日

特許庁長官  
Commissioner,  
Japan Patent Office

今 井 康 夫



【書類名】 特許願

【整理番号】 KGB1030001

【提出日】 平成15年 2月12日

【あて先】 特許庁長官 殿

【国際特許分類】 G11B 20/10 311  
G11B 7/00

【発明者】

【住所又は居所】 大阪府守口市京阪本通 2 丁目 5 番 5 号 三洋電機株式会  
社内

【氏名】 白石 卓也

【発明者】

【住所又は居所】 大阪府守口市京阪本通 2 丁目 5 番 5 号 三洋電機株式会  
社内

【氏名】 富澤 眞一郎

【特許出願人】

【識別番号】 000001889

【氏名又は名称】 三洋電機株式会社

【代表者】 桑野 幸徳

【代理人】

【識別番号】 100111383

【弁理士】

【氏名又は名称】 芝野 正雅

【連絡先】 電話 0 3 - 3 8 3 7 - 7 7 5 1 知的財産センター 東  
京事務所

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 013033

【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【包括委任状番号】 9904451

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 データ記録制御装置

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 所定のデータフォーマットに対応したディスク位置情報が互いに異なる記録フォーマットにて記録された複数種類のディスク媒体に対するデータの記録動作を制御するデータ記録制御装置であって、

ディスク媒体からの再生信号をデコードして、前記複数種類のディスク媒体のそれぞれに応じた前記ディスク位置情報を生成する複数のアドレスデコーダと、  
該複数のアドレスデコーダの出力を選択するセレクトと、

前記セレクトで選択された前記ディスク位置情報に基づき、各ディスク媒体へのデータの書き込みタイミングを制御するタイミング制御回路とを備えることを特徴とするデータ記録制御装置。

【請求項 2】 請求項 1 記載のデータ記録制御装置において、

記録するデータに所定の変調処理を施して変調データを生成する変調回路と、  
前記変調データに基づいて当該ディスク媒体に対する記録レーザの出力を制御する記録パルスを前記複数種類のディスク媒体毎にそれぞれ生成する複数のライトストラテジ回路と、

前記複数のライトストラテジ回路の出力を選択する第 2 のセレクトとを更に備えることを特徴とするデータ記録制御装置。

【請求項 3】 請求項 1 記載のデータ記録制御装置において、

記録するデータに所定の変調処理を施して変調データを生成する変調回路と、  
前記変調データに基づいて前記複数種類のディスク媒体のそれぞれに対応する記録レーザに応じた記録パルスを生成するライトストラテジ回路とを更に備えることを特徴とするデータ記録制御装置。

【請求項 4】 請求項 3 記載のデータ記録制御装置において、

前記ライトストラテジ回路は、前記変調データに基づいて前記記録パルスを生成するパルス生成部と、

前記複数種類のディスク媒体の種類に応じて前記パルス生成部での前記記録パルスの生成態様を設定するテーブルデータを格納するレジスタとを備えることを

特徴とするデータ記録制御装置。

【請求項 5】請求項 2 ～ 4 のいずれかに記載のデータ記録制御装置において

、  
前記記録パルスを取り込み、前記タイミング制御回路の指示に従って取り込んだ記録パルスを出力するゲート回路を更に備えることを特徴とするデータ記録制御装置。

【請求項 6】請求項 1 ～ 5 のいずれかに記載のデータ記録制御装置において

、  
ディスク媒体からの再生信号に基づいて、前記複数種類のディスク媒体のそれぞれに応じたクロックを生成するクロック生成回路を更に備えることを特徴とするデータ記録制御装置。

【請求項 7】請求項 1 ～ 6 のいずれかに記載のデータ記録制御装置において

、  
前記互いに異なる記録フォーマットにてディスク位置情報が記録された複数種類のディスク媒体は、当該ディスク媒体の記録トラックの所定間隔毎に形成されたランドプリピットに前記ディスク位置情報が記録される第 1 のディスク媒体と、当該ディスク媒体の記録トラックに形成された蛇行成分に前記ディスク位置情報が記録される第 2 のディスク媒体とであることを特徴とするデータ記録制御装置。

【発明の詳細な説明】

【0 0 0 1】

【発明の属する技術分野】

本発明は、所定のデータフォーマットに対応したディスク位置情報が互いに異なる記録フォーマットにて記録された複数種類のディスク媒体に対するデータの記録動作を制御するデータ記録制御装置に関する。

【0 0 0 2】

【従来の技術】

近年、記録媒体として光ディスク等、ディスク媒体が普及してきている。こうした状況下、ディスク媒体に記録されるデータのフォーマットを共通としつつも

ディスク媒体に形成されているディスク位置情報の記録フォーマットが互いに異なるものも市場に出回りつつある。

#### 【 0 0 0 3 】

例えば、DVD-R (Digital Versatile Disc-Recordable) 及びDVD-RW (Digital Versatile Disc-Rewritable) と、DVD+R (Digital Versatile Disc+Recordable) 及びDVD+RW (Digital Versatile Disc+Rewritable) とがそれぞれである。これらDVD-R及びDVD-RW (以下、DVD-R/RW) とDVD+R及びDVD+RW (以下、DVD+R/RW) とは、図3に示す互いに共通したデータフォーマットに従ったデータを記録すべく規格化されたディスク媒体である。

#### 【 0 0 0 4 】

図3に示すデータである上記各ディスク媒体への記録対象となるDVDデータは、8ビットのデータが16ビットのデータに変調され、更に同期信号等が付与されたものである。詳しくは、32ビットの同期信号(図中、「シンク」と表記)と、1456ビットの変調されたデータとからなる。すなわち、728ビット分のデータが8-16変調されることで1456ビットのデータとなり、これら各変調された1456ビットのデータ毎に、その先頭に32ビットの同期信号(シンク)が付与されて1フレーム分の記録データが生成されている。DVDでは、この1フレーム分の記録データが26個で1セクタとして取り扱われる。この図3には、DVDにおける1セクタ分の記録データの構造が示されている。

#### 【 0 0 0 5 】

このような所定のフォーマットを有するDVDデータを記録する上記各ディスク媒体は、それぞれ以下のような記録フォーマットにてそのディスク位置情報を記録する。

#### 【 0 0 0 6 】

上記DVD-R/RWは、ディスクの平坦面(ランド)に形成されるグループとよばれる溝によって構成されるトラックを備えている。このグループはわずかに蛇行(ウォブル)して形成されており、この蛇行から、所定の周期を有するウォブル信号が取り出される。このウォブルは、上記データフォーマットの2フレ

ーム分のデータ記録領域に16周期の割合で形成されている。

【0007】

また、このディスク媒体には、ウォブルに加えてランドプリピット（LPP）とよばれるディスク位置情報を含む領域が、トラック上に所定の間隔で設けられている。詳しくは、このLPPは、上記データフォーマットの2フレームに対応したデータの記録領域毎に設けられている。そして、上記データフォーマットの各16セクタ分の記録領域に設けられるLPPの集合によって、そのディスク位置情報が示されるものとなっている。

【0008】

一方、DVD+R/RWも、ディスクの平坦面（ランド）に形成されるグループとよばれる溝によって構成されるトラックを備えている。また、このグループもわずかに蛇行（ウォブル）して形成されており、この蛇行から、所定の周期を有するウォブル信号が取り出される。

【0009】

ただし、このウォブルは、上記データフォーマットの2フレーム分の記録領域に93周期で形成されている。また、DVD+R/RWには、上記ディスク位置情報を含むLPPが形成されていない。これに代えて、上記グループは、上記ウォブル信号に上記所定の周期に対しADIP（Address In Pregroove）と呼ばれるディスク位置情報に応じた位相変調が施されるようにして形成されている。詳しくは、このウォブルには、上記データフォーマットの2フレームのデータの記録領域毎に1度位相変調がなされている。そして、上記データフォーマットの各4セクタ分の記録領域から得られるADIPによって、そのディスク位置情報が示されるものとなっている。

【0010】

このように、ディスク媒体としてのDVD-R/RWとDVD+R/RWとは、そのディスク位置情報の記録フォーマットが異なるために、これらに対しデータを記録する装置は、DVD-R/RWとDVD+R/RWとで各別の回路を備えることとなる。すなわち、例えば図4に示すような構成が考えられる。この図4は、これらDVD-R/RWとDVD+R/RWとをディスク媒体としてこれ



にデータを記録する装置の構成例を、それらにデータを記録する際の信号の流れと共に例示したものである。

#### 【0 0 1 1】

まず、図 4 に示す光ディスク 3 0 1 を DVD-R 又は DVD-RW としてこれにデータを書き込む場合、まず、光学ヘッド 3 1 0 により光ディスク 3 0 1 からピックアップされた信号が LPP 検出回路 3 2 0 に入力される。この入力を受けて、LPP 検出回路 3 2 0 は LPP 信号を出力する。そして、この LPP 信号を入力として、LPP アドレスデコーダ 3 2 1 は上記ディスク位置情報（LPP アドレス）を取り出す。

#### 【0 0 1 2】

こうして読み取られた LPP アドレスは、タイミング制御回路 3 2 2 に入力される。そして、8 - 1 6 変調回路 3 2 3 は、このタイミング制御回路 3 2 2 からの指令を受けて、外部から送られてきた記録対象のデータに変調処理を行い、これを DVD-R / RW 用ライトストラテジ回路 3 2 4 に出力する。DVD-R / RW 用ライトストラテジ回路 3 2 4 は、変調されたデータを、ディスクに記録するレーザの出力を制御する記録パルスに変換して出力する。この DVD-R / RW 用ライトストラテジ回路 3 2 4 から出力された記録パルスは、ライトシグナルゲート 3 2 5 に送出される。ライトシグナルゲート 3 2 5 はタイミング制御回路 3 2 2 の指示に従って記録パルスを光学ヘッド 3 1 0 へ出力する。このライトシグナルゲート 3 2 5 から出力された記録パルスは、切替制御信号により入力信号を選択的に出力するセクタ 3 4 0 を介して、光学ヘッド 3 1 0 に取り込まれる。これにより、DVD-R / RW に対するデータの書き込みが行われることとなる。

#### 【0 0 1 3】

一方、図 4 に示す光ディスク 3 0 1 を DVD+R 又は DVD+RW としてこれにデータを書き込む場合にも、まず、光学ヘッド 3 1 0 により光ディスク 3 0 1 からピックアップされた信号がウォブル検出回路 3 3 0 に入力される。この入力を受けて、ウォブル検出回路 3 3 0 はウォブル信号を出力する。そして、このウォブル信号を入力として、ADIP アドレス 3 3 1 デコーダはディスク位置情報

(ADIPアドレス)を取り出す。

**【0014】**

こうして読み取られたADIPアドレスは、タイミング制御回路332に入力される。そして、8-16変調回路333は、このタイミング制御回路332からの指令を受けて、外部から送られてきた記録対象のデータに変調処理を行い、これをDVD+R/RW用ライトストラテジ回路334に出力する。DVD+R/RW用ライトストラテジ回路334は、変調されたデータをDVD+R/RW用の記録パルスに変換して出力する。このDVD+R/RW用ライトストラテジ回路334から出力された記録パルスは、ライトシグナルゲート335に送出される。ライトシグナルゲート335はタイミング制御回路332の指示に従って記録パルスを光学ヘッド310に出力する。このライトシグナルゲート335から出力された記録パルスは、切替制御信号により入力信号を選択的に出力するセレクタ340を介して、光学ヘッド310に取り込まれる。これにより、DVD+R/RWに対するデータの書き込みが行われることとなる。

**【0015】**

**【発明が解決しようとする課題】**

上述のように、DVD-R/RWとDVD+R/RWとをディスク媒体としてこれにデータを記録する装置を構成する場合、これら各ディスクに応じた各別の回路を備えることとなる。その結果、こうした装置では、回路規模の増大が無視できないものとなる。

**【0016】**

なお、上記DVD-R/RWとDVD+R/RWとに限らず、所定のデータフォーマットに対応したディスク位置情報が互いに異なる記録フォーマットにて記録されている複数のディスク媒体に対しデータを記録する装置にあっては、その回路規模が増大するこうした実情も概ね共通したものになっている。

**【0017】**

本発明は上記実情に鑑みてなされたものであり、その目的は、ディスク位置情報が互いに異なる記録フォーマットにて記録された複数のディスク媒体に対しデータを記録する場合において、その回路規模を好適に抑制することのできるデー

タ記録制御装置を提供することにある。

#### 【 0 0 1 8 】

##### 【課題を解決するための手段】

この発明は、所定のデータフォーマットに対応したディスク位置情報が互いに異なる記録フォーマットにて記録された複数種類のディスク媒体に対するデータの記録動作を制御するデータ記録制御装置であって、ディスク媒体からの再生信号をデコードして、前記複数種類のディスク媒体のそれぞれに応じた前記ディスク位置情報を生成する複数のアドレスデコーダと、該複数のアドレスデコーダの出力を選択するセレクタと、前記セレクタで選択された前記ディスク位置情報に基づき、各ディスク媒体へのデータの書き込みタイミングを制御するタイミング制御回路とを備えることで、ディスク位置情報が互いに異なる記録フォーマットにて記録された複数のディスク媒体に対しデータを記録する場合において、その回路規模を好適に抑制することを可能とする。

#### 【 0 0 1 9 】

##### 【発明の実施の形態】

##### （第 1 の実施形態）

以下、本発明にかかるデータ記録制御装置を DVD-R / RW と DVD+R / RW とをディスク媒体としてこれにデータを記録するための制御を行うデータ記録制御装置に適用した第 1 の実施形態について、図面を参照しつつ説明する。

#### 【 0 0 2 0 】

図 1 は、本実施形態のデータ記録制御装置を備えるデータ記録装置について、当該データ記録制御装置及びその周辺の構成を、それらにデータを記録する際のデータの流れと共に示すブロック図である。

#### 【 0 0 2 1 】

ここで、光ディスク 1 は、DVD-R / RW 又は DVD+R / RW である。また、本実施形態にかかるデータ記録制御装置 1 0 0 は、図示しないバッファメモリ等からデータを取り込み、これに対応した記録パルスを生成して光学ヘッド 1 0 に出力する装置である。また、光学ヘッド 1 0 は、光ディスク 1 に照射する再生用のレーザや記録用のレーザの反射光を受光する機能を有し、この反射光に基

づいて光ディスク 1 に記録されているデータ等の再生信号を生成する。

#### 【0022】

一方、LPP 検出回路 20 は、上記光ディスク 1 が DVD-R/RW である場合に、光学ヘッド 10 により光ディスク 1 からピックアップされた信号を取り込んで、これから LPP 信号を生成出力する回路である。

#### 【0023】

これに対し、ウォブル検出回路 30 は、光学ヘッド 10 により光ディスク 1 からピックアップされた信号を取り込んで、これからウォブル信号を生成出力する回路である。すなわち、上記光ディスク 1 が DVD-R/RW である場合、同 DVD-R/RW に形成されているウォブルに基づいたウォブル信号を生成する回路である。また、上記光ディスク 1 が DVD+R/RW である場合、同 DVD+R/RW に形成されているウォブルに基づいたウォブル信号を生成する回路である。

#### 【0024】

ここで、上記データ記録制御装置 100 について更に説明する。

#### 【0025】

このデータ記録制御装置 100 は、光ディスク 1 が DVD-R/RW である場合、上記 LPP 検出回路 20 から出力される LPP 信号に基づいて光ディスク 1 に対するレーザの照射位置を把握する機能を有する。詳しくは、上記 LPP 信号は、LPP アドレスデコーダ 110 に取り込まれ、ここでデコードされる。これにより、上記フレーム単位のデータが記録される領域に対応した同期信号や、光ディスク 1 上の上記セクタ単位のデータ記録領域を示すアドレス信号（LPP アドレス）が生成される。そして、光ディスク 1 が DVD-R/RW である場合、この LPP アドレスが、光ディスク 1 に対するレーザの照射位置を把握するための信号となる。

#### 【0026】

更に、データ記録制御装置 100 は、光ディスク 1 が DVD+R/RW である場合、上記ウォブル検出回路 30 から出力されるウォブル信号に基づいて光ディスク 1 に対するレーザの照射位置を把握する機能を有する。詳しくは、上記ウォ

ブル信号は、ADIPアドレスデコーダ115に取り込まれ、ここでデコードされる。これにより、上記フレーム単位のデータが記録される領域に対応した同期信号や、光ディスク1上の上記セクタ単位のデータ記録領域を示すアドレス信号（ADIPアドレス）が生成される。そして、光ディスク1がDVD+R/RWである場合、このADIPアドレスが、光ディスク1に対するレーザの照射位置を把握するための信号となる。

#### 【0027】

これらLPPアドレスデコーダ110にて生成されるLPPアドレスやADIPアドレスデコーダ115にて生成されるADIPアドレスは、基本的に同一のデータフォーマットに従ったアドレスデータである。すなわち、DVD-R/RWとDVD+R/RWとは、先の図3に示したデータフォーマットに対応したアドレスデータ（ディスク位置情報）が互いに異なる記録フォーマットにて記録されているものであるため、この記録されたデータがデコードされたものは互いに共通のデータとすることができる。なお、これらLPPアドレスやADIPアドレスは、切替制御信号により入力信号を選択的に出力するセクタ120を介してタイミング制御回路130に出力される。

#### 【0028】

このタイミング制御回路130は、上記LPPアドレス又はADIPアドレスに基づいて把握される光ディスク1に対するレーザの照射位置に基づいて、当該データ記録制御にかかる動作タイミングを制御する回路である。

#### 【0029】

次に、このタイミング制御回路130にてその動作タイミングが制御されるデータ記録制御装置100内の回路について説明する。

#### 【0030】

8-16変調回路140は、入力されるデータを先の図3に示したフォーマットのデータに変調する回路である。すなわち、光ディスク1がDVD-R/RW又はDVD+R/RWのいずれである場合であれ、DVDのフォーマットに符号化されたデータを光ディスク1に実際に記録するデータとなる変調データに変調する回路である。

**【0031】**

一方、DVD-R/RW用ライトストラテジ回路150は、上記8-16変調回路140から出力される変調データに所定のパルス変換処理を施すことでDVD-R/RWにとって適切なレーザの強度や照射時間にレーザを制御するための記録パルスを生成する回路である。

**【0032】**

また、DVD+R/RW用ライトストラテジ回路155は、上記8-16変調回路140から出力される変調データに所定のパルス変換処理を施すことでDVD+R/RWにとって適切なレーザの強度や照射時間にレーザを制御するための記録パルスを生成する回路である。

**【0033】**

これらの回路としては、例えば特開平6-313329号公報や特開2000-57571号公報に記載されているライトストラテジ回路を適用することができる。

**【0034】**

そして、これらDVD-R/RW用ライトストラテジ回路150や、DVD+R/RW用ライトストラテジ回路155から出力される記録パルスは、切替制御信号により入力信号を選択的に出力するセレクタ160を介してライトシグナルゲート165に取り込まれる。このライトシグナルゲート165は、記録パルスを外部へ（ここでは光学ヘッド10へ）出力するか否かを制御する回路である。そして、ライトシグナルゲート165から記録パルスが出力されると、上記光学ヘッド10では、入力される記録パルスに応じてレーザを生成し、これを光ディスク1へ照射する。

**【0035】**

なお、当該データ記録制御装置100内の各回路は、DVD-R/RW用クロック生成回路170又はDVD+R/RW用クロック生成回路175の生成するクロックCLKを動作クロックとして動作する。

**【0036】**

ここで、DVD-R/RW用クロック生成回路170は、上記ウォブル検出回

路 30 から出力されるウォブル信号に基づいて DVD-R/RW に適したクロック CLK を生成する。すなわち、DVD-R/RW の場合、上記データフォーマットの 2 フレーム分のデータ記録領域に 16 周期の割合でウォブルが形成されていることから、ウォブル信号の 1 周期あたり例えば「186」クロックとなるように動作クロックを生成する。これにより、光ディスク 1 に対するレーザの照射位置が 1 ビット分のデータ記録領域だけ変位する時間を 1 クロックとする動作クロックが生成される。

#### 【0037】

一方、DVD+R/RW 用クロック生成回路 175 は、上記ウォブル検出回路 30 から出力されるウォブル信号に基づいて DVD+R/RW に適したクロック CLK を生成する。すなわち、DVD+R/RW の場合、上記データフォーマットの 2 フレーム分のデータ記録領域に 93 周期の割合でウォブルが形成されていることから、ウォブル信号の 1 周期あたり例えば「32」クロックとなるように動作クロックを生成する。これにより、光ディスク 1 に対するレーザの照射位置が 1 ビット分のデータ記録領域だけ変位する時間を 1 クロックとする動作クロックが生成される。

#### 【0038】

そして、これら DVD-R/RW 用クロック生成回路 170 や DVD+R/RW 用クロック生成回路 175 の生成するクロックは、切替制御信号に応じて入力信号を選択的に出力するセレクタに取り込まれる。これにより、当該データ記録制御装置内の各回路は、上記 DVD-R/RW 用クロック生成回路 170 や DVD+R/RW 用クロック生成回路 175 の生成するクロックを動作クロックとすることで、回転制御される光ディスク 1 の動作に対応して動作するものとなる。

#### 【0039】

ここで、光ディスク 1 が DVD-R である場合の当該データ記録制御装置 100 による記録制御について説明する。なお、光ディスク 1 が DVD-RW である場合も同様であるため、この場合の制御については説明を割愛する。

#### 【0040】

この場合、セレクタ 180 によって、DVD-R/RW 用クロック生成回路 1

7 0 の生成するクロックの出力が選択的に出力される。そして、回転制御される光ディスク 1 にレーザを照射することで得られる再生信号から生成される上記 L P P 信号が L P P アドレスデコーダ 1 1 0 に取り込まれ、ここで L P P アドレスが生成される。そして、この場合、セクタ 1 2 0 によって、この L P P アドレスが選択的にタイミング制御回路 1 3 0 に出力される。

#### 【 0 0 4 1 】

一方、タイミング制御回路 1 3 0 に対しては、記録を開始するデータのアドレス情報や、この記録対象のデータを光ディスク 1 上のどの位置から記録するかを示すアドレス情報（ディスクのアドレス）が外部から指示される。そして、これにより、タイミング制御回路 1 3 0 は、上記 8 - 1 6 変調回路 1 4 0 や、DVD-R/RW 用ライトストラテジ回路 1 5 0、ライトシグナルゲート 1 6 5 の動作を制御する。詳しくは、まず、レーザの照射位置が記録の開始を所望する位置となるタイミングに対して変調に要する時間及び記録パルスの生成に要する時間に所定時間を加算した時間だけ前となるタイミングで変調を開始するよう変調回路 1 4 0 に指令する。更に、レーザの照射位置が記録の開始を所望する位置となるタイミングまで記録パルスのうち実際に記録を所望するパルスを DVD-R/RW 用ライトストラテジ回路 1 5 0 にて保持しつつ待機するよう 8 - 1 6 変調回路 1 4 0 及び DVD-R/RW 用ライトストラテジ回路 1 5 0 に指令する。

#### 【 0 0 4 2 】

これにより、変調回路 1 4 0 における変調処理や DVD-R/RW 用ライトストラテジ回路 1 5 0 による変調データの記録パルスへの変換処理の終了時において、レーザの照射位置は、記録を所望する位置よりも前の位置となる。そして、レーザの照射位置が所望の位置となるタイミングで、変調回路 1 4 0 及び DVD-R/RW 用ライトストラテジ回路 1 5 0 及びライトシグナルゲート 1 6 5 を起動する。この際、セクタ 1 6 0 は DVD-R/RW 用ライトストラテジ回路 1 5 0 の出力を選択的にライトシグナルゲート 1 6 5 に出力するよう切替制御信号によって選択されている。

#### 【 0 0 4 3 】

なお、DVD-R/RW 用ライトストラテジ回路 1 5 0 によって生成される記



録パルスの途中からデータの記録を開始する場合には、同生成された記録パルスのうち記録を所望しない記録パルスは、ライトシグナルゲート 165 に出力される。しかし、この時点では、タイミング制御回路 130 からの指示によってライトシグナルゲート 165 は出力を禁じられているために、この記録を所望しないデータが光ディスク 1 に書き込まれることはない。

#### 【0044】

次に、光ディスク 1 が DVD+R である場合の当該データ記録制御装置 100 による記録制御について説明する。なお、光ディスク 1 が DVD+RW である場合も同様であるため、この場合の制御については説明を割愛する。

#### 【0045】

この場合、セクタ 180 によって、DVD+R/RW 用クロック生成回路 175 の生成するクロックの出力が選択的に出力される。そして、回転制御される光ディスク 1 にレーザを照射することで得られる再生信号から生成される上記ウォブル信号が ADIP アドレスデコーダ 115 に取り込まれ、ここで ADIP アドレスが生成される。そして、この場合、セクタ 120 によって、この ADIP アドレスが選択的にタイミング制御回路 130 に出力される。

#### 【0046】

一方、タイミング制御回路 130 は、記録を開始するデータのアドレス情報等が外部から指示されることで、上記 8-16 変調回路 140 や、DVD+R/RW 用ライトストラテジ回路 155、ライトシグナルゲート 165 の動作を、上述した制御に準じた態様にて制御する。

#### 【0047】

このように本実施形態では、タイミング制御回路 130 を DVD-R/RW と DVD+R/RW とで共有化することで、回路規模の低減を図ることができる。

#### 【0048】

以上説明した本実施形態によれば、以下の効果が得られるようになる。

#### 【0049】

(1) LPP アドレスデコーダ 110 の出力する LPP アドレスと ADIP アドレスデコーダ 115 の出力する ADIP アドレスとのいずれかを選択的にタイ

ミング制御回路 130 に出力するセクタ 120 を備えた。これにより、光ディスク 1 が DVD-R/RW である場合と DVD+R/RW である場合とで、タイミング制御回路 130 を共有化することができ、ひいては、当該データ記録制御装置 100 の回路規模を低減することができるようになる。

#### 【0050】

(2) DVD-R/RW 用ライトストラテジ回路 150 の出力する記録パルスと DVD+R/RW 用ライトストラテジ回路 155 の出力する記録パルスとのいずれかを選択的にライトシグナルゲート 165 に出力するセクタ 160 を備えた。これにより、光ディスク 1 が DVD-R/RW である場合と DVD+R/RW である場合とで、ライトシグナルゲート 165 を共有化することができ、ひいては、当該データ記録制御装置 100 の回路規模を低減することができるようになる。

#### 【0051】

##### (第 2 の実施形態)

以下、本発明にかかるデータ記録制御装置を DVD-R/RW と DVD+R/RW とをディスク媒体としてこれにデータを記録するための制御を行うデータ記録制御装置に適用した第 2 の実施形態について、上記第 1 の実施形態との相違点を中心に図面を参照しつつ説明する。

#### 【0052】

図 2 は、本実施形態のデータ記録制御装置を備えるデータ記録装置について、当該データ記録制御装置及びその周辺の構成を、それらにデータを記録する際のデータの流れと共に示すブロック図である。なお、図 2 では、先の図 1 に示した部材と同一の部材については便宜上同一の符号を付した。

#### 【0053】

上記第 1 の実施形態では、DVD-R/RW 用ライトストラテジ回路 150 と DVD+R/RW 用ライトストラテジ回路 155 とを各別に備え、これらいずれかの出力する記録パルスをセクタ 160 によって選択的にライトシグナルゲート 165 に出力する構成とした。これに対し、本実施形態では、DVD-R/RW に適した記録パルスと DVD+R/RW に適した記録パルスとを生成する単一

のライトストラテジ回路 2 5 0 を備える。

#### 【0 0 5 4】

詳しくは、ライトストラテジ回路 2 5 0 は、上記変調されたデータに基づいて記録パルス生成部 2 5 2 と、DVD-R/RW と DVD+R/RW とに応じて上記パルス生成部 2 5 2 による記録パルスの生成態様を設定するテーブルデータを格納するレジスタ 2 5 4 とを備えている。

#### 【0 0 5 5】

ここで、パルス生成部 2 5 2 は、変調されたデータの各パルス毎に、これを 1 又は複数のパルスからなる記録パルスにパルス変調する回路である。そして、この各記録パルスについて、その構成する各パルスのパルス幅、パルスのエッジ、パルス波高値、パルス数は、それぞれ変調データに応じて決定される可変パラメータとなる。

#### 【0 0 5 6】

一方、上記レジスタ 2 5 4 は、光ディスク 1 の種類に応じて、上記変調されたデータから記録パルスへのパルス変調態様を設定するテーブルデータを、換言すれば変調されたデータに対応して上記各可変パラメータを決定するテーブルデータを格納している。このテーブルデータは光ディスク 1 の種類に応じて、例えば当該データ記録装置の各部の制御を統括するマイクロコンピュータ（図示略）からレジスタ 2 5 4 に書き込まれる。そして、これにより、パルス生成部 2 5 2 では、レジスタ 2 5 4 に格納されているテーブルデータと入力される変調されたデータとに基づいて記録パルス生成のための演算を行い、この演算処理の結果生成される記録パルスを出力する。

#### 【0 0 5 7】

更に、本実施形態では、DVD-R/RW と DVD+R/RW とにデータを記録する際に用いる各クロックを生成する単一のクロック生成回路 2 7 0 を備える。詳しくは、このクロック生成回路 2 7 0 は、入力されるウォルブ信号に基づいてクロックを生成する PLL 回路 2 7 2 と、外部から入力される切替信号に応じて同 PLL 回路 2 7 2 のクロックの生成態様を切り替える切替回路 2 7 4 とを備えている。

**【 0 0 5 8 】**

すなわち、切替信号により DVD-R/RW用のクロックが指定された場合、入力されるウォブル信号の1ウォブルあたり例えば「186」クロックとなるようにPLL回路272を制御する。一方、切替信号により DVD+R/RW用のクロックが指定された場合、入力されるウォブル信号の1ウォブルあたり例えば「32」クロックとなるようにPLL回路272を制御する。いずれにせよ、こうした切替制御によって、光ディスク1に対するレーザの照射位置が1ビット分のデータ記録領域だけ変位する時間を1クロックとする動作クロックが生成される。

**【 0 0 5 9 】**

以上説明した本実施形態によれば、以下の効果が得られるようになる。

**【 0 0 6 0 】**

(3) 変調されたデータに基づいて記録パルスを生成するパルス生成部252と、DVD-R/RWとDVD+R/RWとに応じて上記パルス生成部252による記録パルスの生成態様を設定するテーブルデータを格納するレジスタ254とを備えるライトストラテジ回路250を設けた。これにより、DVD-R/RWとDVD+R/RWとで上記パルス生成部252を共有化することができ、ひいては、当該データ記録制御装置200の回路規模を低減することができるようになる。

**【 0 0 6 1 】**

(4) 本実施形態では、DVD-R/RWとDVD+R/RWとにデータを記録する際に用いる各クロックを生成する単一のクロック生成回路270を備えることで、当該データ記録制御装置200の回路規模を低減することができるようになる。

**【 0 0 6 2 】**

なお、上記各実施形態は、以下のように変更して実施してもよい。

**【 0 0 6 3 】**

・動作クロックは、ウォブル信号から生成するものに限らない。例えばDVD-R/RWへのデータ記録制御に対しては、LPP信号から生成してもよい。ま

た、回転制御される光ディスク 1 に照射されるレーザの反射信号に基づいて生成するクロックにも限らず、例えば水晶発振子等の発振器によって生成されたクロックでもよく、この場合、光ディスク 1 の回転動作を同水晶発振子に対応するように制御すればよい。

#### 【 0 0 6 4 】

・上記第 2 の実施形態では、DVD-R/RW と DVD+R/RW とで、記録パルスのパルス幅とパルス波高値との両方を生成するパルス生成部 2 5 2 を共有化したが、これに限らない。例えばパルス幅及びパルス波高値のいずれか一方の生成にかかる回路のみを DVD-R/RW と DVD+R/RW とで共有してもよい。

#### 【 0 0 6 5 】

・上記各実施形態では、タイミング制御回路の制御対象が変調回路及びライトストラテジ回路及びライトシグナルゲートであったがこれに限らない。例えば当該データ記録制御装置がライトシグナルゲート（ゲート回路）を備えない場合、変調回路及びライトストラテジ回路を制御対象としてもよい。また、変調回路が当該データ記録制御装置内に備えられていない場合、タイミング制御回路の制御対象は、例えばライトストラテジ回路であってもよく、また、ライトストラテジ回路及びライトシグナルゲート（ゲート回路）であってもよい。

#### 【 0 0 6 6 】

・データ記録制御装置の構成は、上記各実施形態やそれらの変形例で例示したものに限らず、光ディスク 1 が DVD-R/RW である場合と DVD+R/RW である場合とで、タイミング制御回路を共有化することができる範囲で適宜変更してよい。

#### 【 0 0 6 7 】

・光ディスクとしては、DVD-R/RW や DVD+R/RW に限らない。要は、所定のデータフォーマットに従ったデータのアドレス情報に対応したディスク位置情報が互いに異なる記録フォーマットにて記録されている第 1 のディスク媒体と第 2 のディスク媒体とであれば、これらに対してタイミング制御回路を共有化することは有効である。

**【 0 0 6 8 】****【発明の効果】**

本願によれば、複数のディスク媒体に対してタイミング制御回路を共有化することができ、回路規模を低減することができるようになる。

**【図面の簡単な説明】**

**【図 1】** 第 1 の実施形態にかかるデータ記録制御装置及びその周辺回路の構成を示すブロック図。

**【図 2】** 第 2 の実施形態にかかるデータ記録制御装置及びその周辺回路の構成を示すブロック図。

**【図 3】** DVD において変調されたデータのフォーマットを示す図。

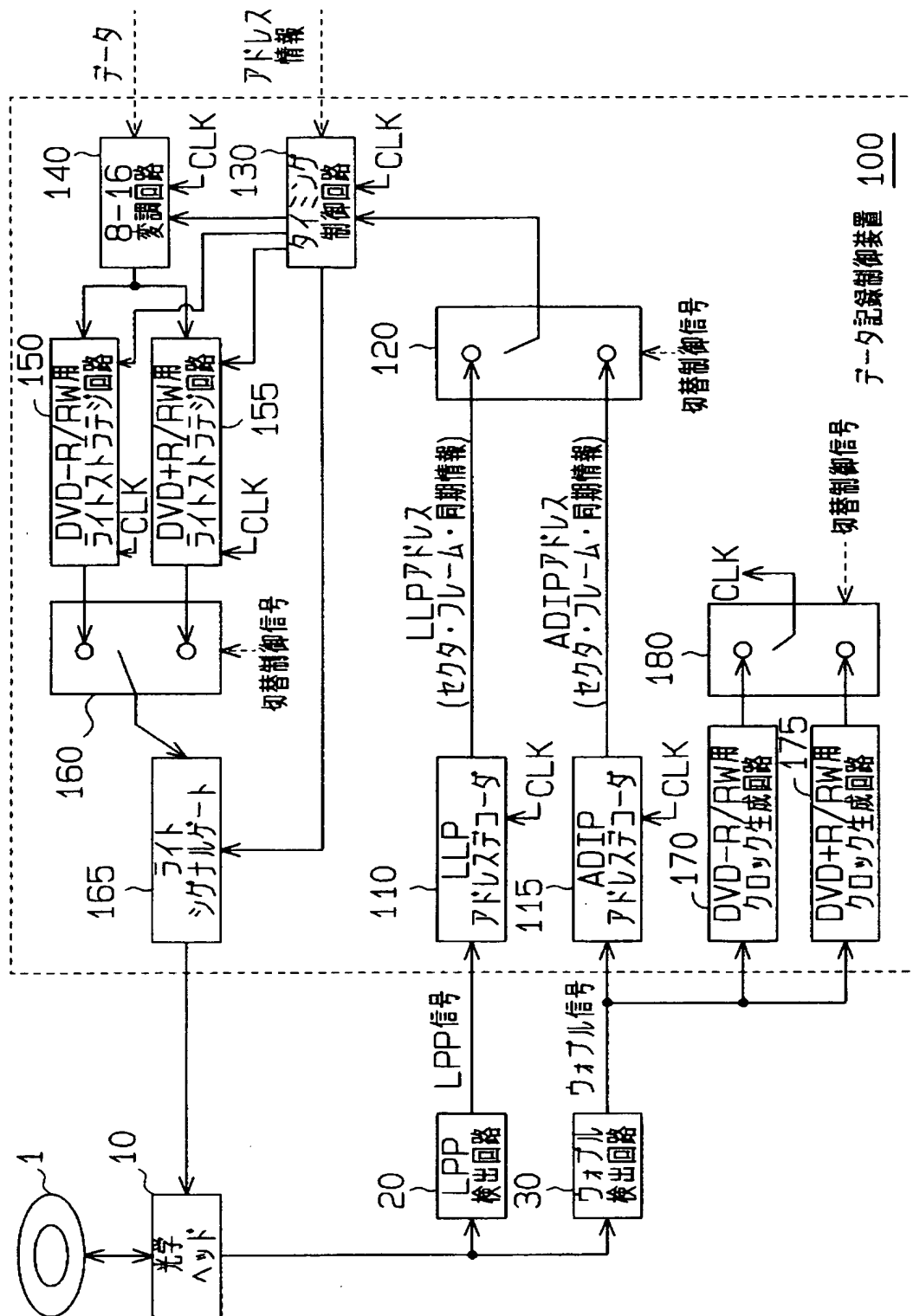
**【図 4】** DVD-R/RW と DVD+R/RW とにデータを記録する従来のデータ記録装置の構成を例示する図。

**【符号の説明】**

1…光ディスク、10…光学ヘッド、20…LPP 検出回路、30…ウォブル検出回路、100…データ記録制御装置、110…LPP アドレスデコーダ、115…ADIP アドレスデコーダ、120…セクタ、130…タイミング制御回路、140…8-16 変調回路、150…DVD-R/RW 用ライトストラテジ回路、155…DVD+R/RW 用ライトストラテジ回路、160…セクタ、165…ライトシグナルゲート、170…DVD-R/RW 用クロック生成回路、175…DVD+R/RW 用クロック生成回路、180…セクタ、200…データ記録制御装置、250…ライトストラテジ回路、252…パルス生成部、254…レジスタ、270…クロック生成回路、272…PLL 回路、274…切替回路。

【書類名】 図面

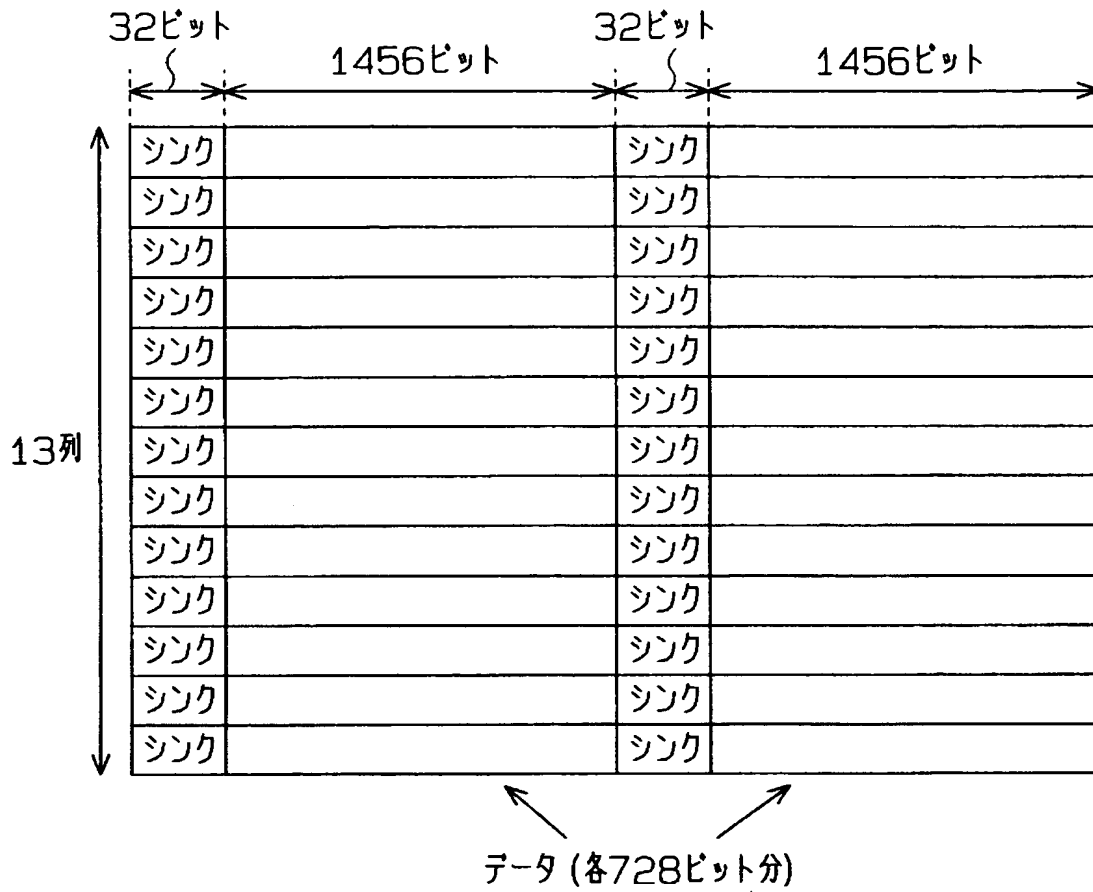
【図1】



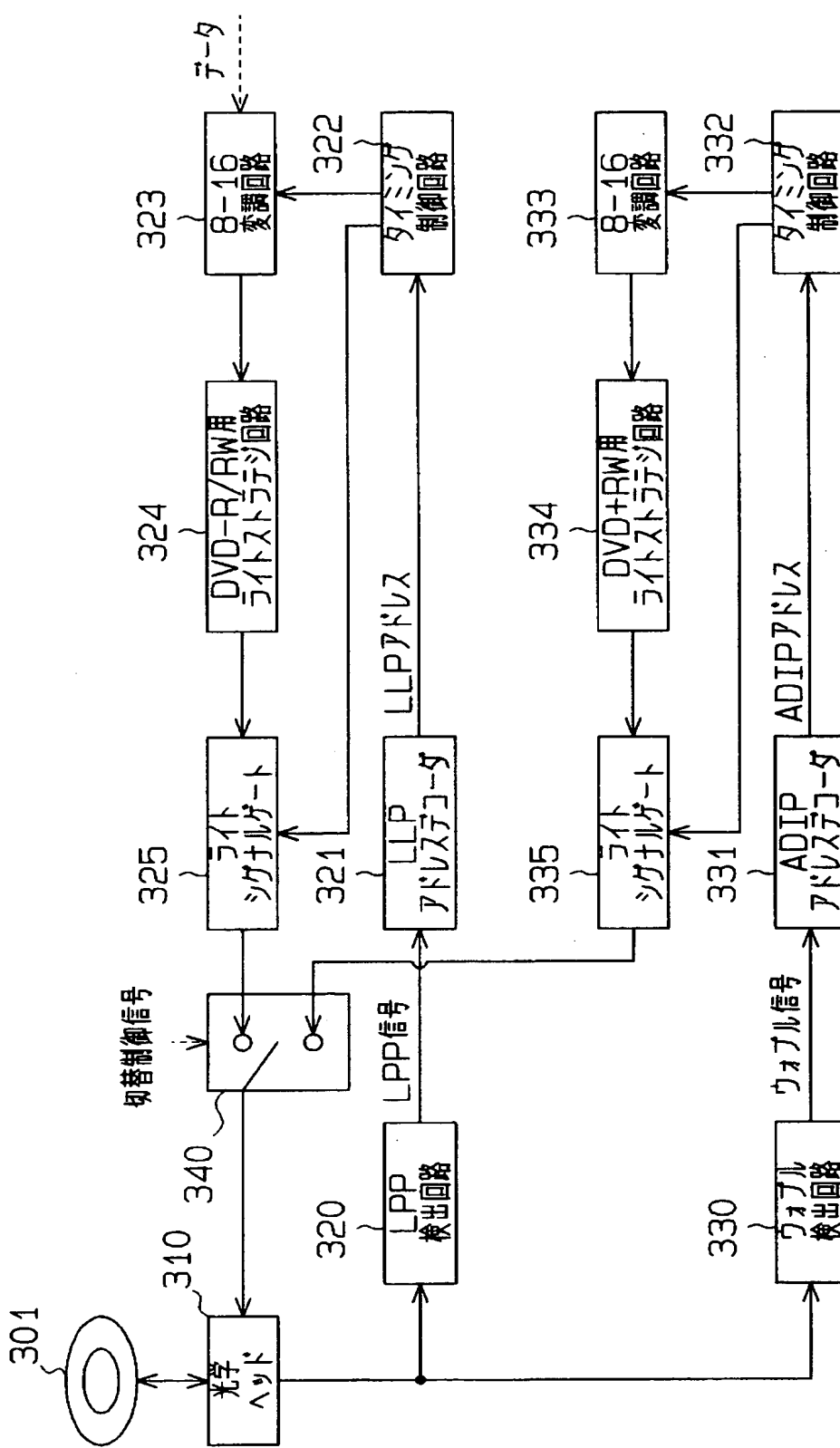




【図 3】



【図4】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 ディスク位置情報が互いに異なる記録フォーマットにて記録された複数のディスク媒体に対しデータを記録する装置の回路規模を好適に抑制する。

【解決手段】 8-16 変調回路 140 にて変調されたデータは、DVD-R/RW 用ライトストラテジ回路 150 又は DVD+R/RW 用ライトストラテジ回路 155 によって記録パルスに変換される。光学ヘッド 10 では、この記録パルスに基づいてその出力の制御された記録レーザを光ディスク 1 に照射する。光ディスク 1 が DVD-R/RW であるか DVD+R/RW であるかに応じて、光ディスクのレーザの照射位置を示すアドレス信号である LPP アドレス又は ADIP アドレスが LPP アドレスデコーダ 110 か ADIP アドレスデコーダ 115 によって生成される。これら LPP アドレスか ADIP アドレスに基づいて、タイミング制御回路 130 では、記録動作を制御する。

【選択図】 図 1

特願 2 0 0 3 - 0 3 3 8 8 9

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号

[ 0 0 0 0 0 1 8 8 9 ]

1. 変更年月日

1 9 9 3 年 1 0 月 2 0 日

[変更理由]

住所変更

住 所

大阪府守口市京阪本通 2 丁目 5 番 5 号

氏 名

三洋電機株式会社